

アルパック ニュースレター



京都橘女子大学に文化財学科棟「清史館」が竣工しました（本文中に関連記事があります）

アルパック ニュースレター もくじ

1997年5月1日

- 民家活用の大江町交流促進センターがオープンしました …… 2
- 北欧の高齢者施設を訪ねて …………… 5
- 京都橘女子大学に文化財学科棟「清史館」が竣工しました … 8
- 崇仁の住民参加のまちづくり …………… 9
- ケニア便り その6 ……………10
- 大阪に魅力あるスポットが続々登場……………12
- '97新人紹介 ……………13
- うまいもの通信⑩ ……………14
- アルパック30周年記念事業のお知らせ ……………14
- 新刊旧刊書評紹介 ……………15
- まちかど ……………16

NO. **83**

民家活用のお大江町交流促進センターがオープンしました

中嶋 秀介

伝統的民家が地域の文化交流施設として誕生

4月12日、大江町（京都府）に「大江町交流促進センター」がオープンしました。この施設は、由良川水運の盛んな時代に物資輸送の中継点として栄えた有路^{ありじ}の、一時期舟運の元締め、‘舟役あため’を務めた平野家の住宅を改装整備したものです。「旧平野家住宅」は、由良川北岸の山麓に位置し、舟運を一望できる高台にあります。高さ4mを越える石垣を組み、敷地正面に表門を構え、周囲に土塀や透垣をめぐる風格ある屋敷構えを残していました。

敷地中程に南面して建つ主屋は入母屋造本二階で、明治42年の建造とわかっています。伝統的な民家形式を基盤とした近代和風の建物で、書院を構えた座敷、一間半幅の床を備えた座敷、続き座敷、矩折りの縁側、式台構えなど格式的な構成を持つ一方、数寄屋風の意匠や茶室を配するなど、近代和風らしい多彩な座敷構成を持っています。また、小屋組を洋小屋「キングポストトラス」にしているところも、当時この地方としてはめずらしい建築です。

この大江町交流促進センターは、文化交流施設としての地域利活用と、旧平野家住宅の建築的価値の保存を目的に整備を進めてきました。

建物は建造から現在にいたるまでの間に、幾度かの改修が行われています。今回の改修整備については、建造当初の姿を解明し可能な限り復元していくことを基本としましたが、建物の安全対策上、維持管理上必要な補強・補修を行いながら、利活用機能の整備にも力



日本庭園から見た東南のすがた

点をおいています。

保存整備の対象としたのは、式台から繋がるハレ空間の配置や日本庭園を囲む矩折りの縁側などの格式と伝統のある部分と、当時、最先端の西洋技法を取り入れた「キングポストトラス」の小屋組など建築の本質的なところで、機能的に満足しない部分については、現代技法、新建材での整備や設備の補充を行いました。

伝統的な様式や技法のなかに先端的技术を取り入れて建造されたこの住宅に、当時の精神をかいま見ながら、いまでは住宅として使われなくなった建築に、交流促進センターという地域に開かれた文化施設として新しい息吹を吹き込んでいくことが最大の目標でした。

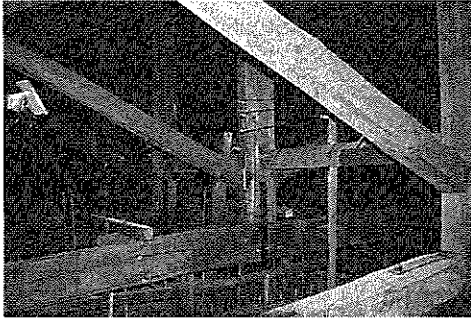
整備内容と施設の特徴

整備工事の主な内容は「小屋組及び構造軸組の不陸調整・補強」「保存修復に係わる内外装の化粧直し」「利活用を目的とした模様替え」と、大きく3つに分けることができます。

小屋組及び軸組の不陸調整・補強

＜小屋組の補強＞

屋根軒先の垂れに対しては、小屋組^{ほねぞう}桔木の締め直し及び新設補強を行いました。小屋組



キングポストトラスの小屋組

の基本は「キングポストトラス」でしたが、矩折れの縁側部は桔木によって三間のスパンをとばすという変則的なものでした。既存桔木は4寸5分角の栗材で、南面に4本、東面に3本が不均一なピッチで入れられていましたが、これに加えて南面4本、東面に2本の地松材で増設しました。

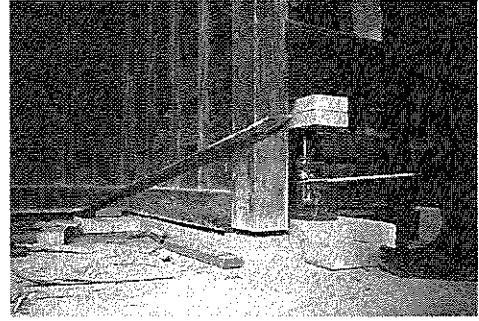
＜座敷廻り軸組の不陸調整＞

構造的にバランスの悪い部分に建物荷重が集中したり、湿気による土台や柱元の腐朽が原因で、構造軸組に不陸・沈下がありました。このためジャッキアップによるレベル調整を行い、礎石と土台の間に1mm単位にスライスした鉛板や堅木（栗材）を噛ませる方法で調整しました。また、北側縁下など特に湿気が多く束の腐朽の著しい部分については、マス石納めなどの処置を施しています。

保存修復に係わる内外装の化粧直し

＜屋根の葺き替え＞

大屋根南面及び東面については桔木補強の必要性もあったため瓦、野地板、垂木の一部を解き外し、腐朽ぐあいを確認したのち復旧しています。瓦葺きについては、従来通り土葺きでの復旧を計画していましたが、軸組の荷重負担を出来るかぎり軽減させ、また既に棧瓦で葺き替えられていた北側屋根とのバランスを考慮して、棧瓦葺きに変更しました。また、劣化の著しい化粧軒裏のへぎ板は、サワラ材での張り替えを行いました。



玄関脇のジャッキアップ一寸以上持ち上げている

＜下屋修繕と水切り＞

下屋おいどめ部の雨仕舞いがあまく、将来的にも雨漏りによる桁梁等構造部材への悪影響も考えられたため、水切板の鋼板巻き納めとしました。意匠上大きなアクセントであった熨斗瓦上の鹿ノ子漆喰は、復旧しました。

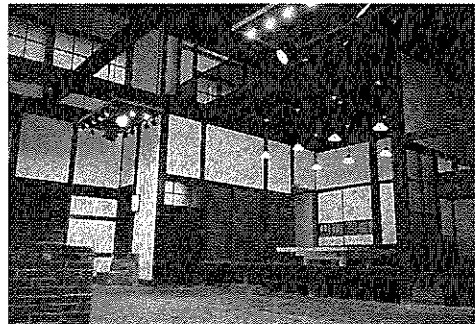
＜内装壁繕い＞

1階・2階ともに、南面から矩折れの縁側づたいにつながる座敷については、現状保存を原則とし、壁ちり切れのつづくり、畳の表替えなどを行っています。

利活用を目的とした模様替え

＜土間ホール＞

土間は、洗い出しの床にクドを囲んだ間口約5.8m、奥行き約9.8m、高さ最大約10mの迫力ある吹き抜けで、この建築を特徴付ける空間です。すすや油で汚れていた壁面は、全面的に新装することで建設当初の壮大な雰囲気よみがえり、交流促進センターの多目的なホールとしての新たな機能を引き立たせています。



土間ホール

＜味噌小屋展示室＞

味噌小屋は三和土の土蔵で、薄暗く閉鎖的な空間でしたが、ここを展示室としました。木製の引き戸1枚で仕切られた土間ホールとは対症的な空間で、展示内容を特徴づけることができます。三和土土間の湿気の影響を極力抑えるよう床の仕様にスノコを用いています。

＜南階段・2階展示室＞

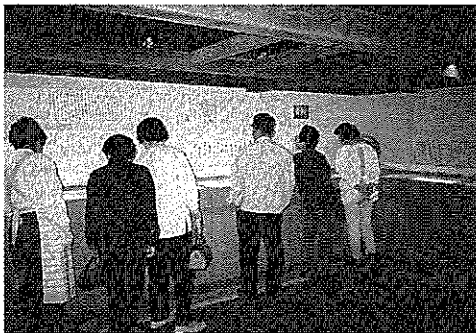
土間南西角の2本の梁を取り外し、階段を新設しています。南の窓より自然の採光が得られるこの階段は、安らぎを与えるつなぎ空間となっていて、さらに折り返し階段を上がると、2階壁面に連続するブラケットランプの規律に組み込まれながら、展示室に入っていくことになります。

＜2階管理室及び水屋＞

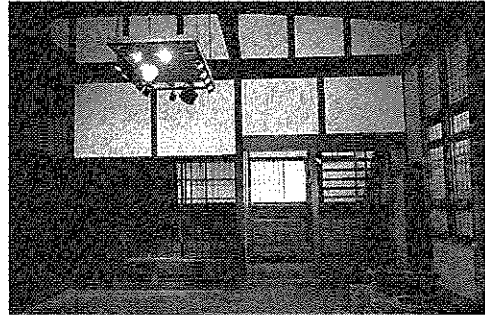
茶室横の4帖間の水屋は、本格的な茶会に対しては不十分であったので、隣接する座敷との間仕切りを移動して、流司、道庫を備えた6帖間の水屋に整備しました。8帖の裏座敷は、流司台と便所を備えた管理室とし、ここから水屋、茶室とつながる利活用動線がつくられ、茶会などの準備室として使用できるようになっています。

現存する民家の利活用を願って

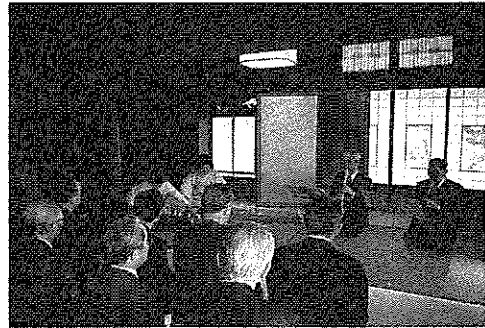
お披露目式典では、テープカットのあと1階座敷では琴と尺八の共演、2階座敷では大



味噌小屋展示室（床はスノコ）



自然の採光が得られる階段



お披露目式典での琴、尺八の共演

茶会が繰り広げられました。展示室では「旧平野家住宅」にまつわる歴史の紹介や環日本海で活躍されている作家の絵画や彫刻などが展示されました。

当面の利用形態は、部屋の利用、施設見学とも予約制になります。また、展示のプログラムについて、検討が進められているところです。

ところで、このように明治期に建てられた民家は、京都府内にもたくさん残っており、来年度以降は文化財行政による発掘調査も行われるようです。今後これらを活用した地域施設が増えてくるものと思われます。大江町交流促進センターが行政主導の良い事例となるよう願っているしだいです。

センター利用・見学の問い合わせ先は、

大江町交流促進センターTel 0773-57-0168

大江町産業建設課 Tel 0773-56-1104

（京都事務所 なかしま しゅうすけ）

北欧の高齢者施設を訪ねて —スウェーデンとデンマークの高齢者施設—

池田 さちよ

福祉の先進国といわれているスウェーデンとデンマークの高齢者施設の視察ツアーがあるということで、2月末に約10日間の日程でいってきました。

訪問先は、スウェーデンでは10番目の都市であるヘルシンボリ市（人口11万人）。デンマークのヘルシンゴーからフェリーで約25分、最もデンマークに近い赤煉瓦の建物の美しい港町でした。

デンマークの訪問先は、2番目の都市であるオーフツ市（人口約28万人）です。デンマークの中でも福祉の先進的な地域ということで、いろいろな取り組みを始めているところです。

【一部民間委託を始めたスウェーデンの福祉
：但し、基本は国（行政）が責任を持つ】
スウェーデンの福祉・医療の仕組みと税金

福祉・医療に関する財源は、基本的には税金でまかなっており、運営上の責任は、国は年金・福祉、県は医療関係、市は学校・保育関係、介護・看護、身体障害者に対する責任といったように、国、県、市で明確に分かれています。

納税の仕組みはほぼ日本と同じで企業が個人の賃金から控除して国や自治体へ納める方法、個人の場合は直接申告納付です。

税金の使われ方は、国税は国民年金と市への分配、県税は医療関係、市税（地方税）は市の予算となります。

施設ケアから在宅ケアへ移行しつつある高齢者福祉：24時間介護の実施

高齢者の特別な住宅として、老人ホーム（プライエムと呼ばれている健康な高齢者用、

1ヶ所に50名、全部個室）、ナーシングホーム（病気の高齢者、1ヶ所 200名、4人部屋）、グループホーム（痴呆の老人5～6名が1グループで住む）が建設されてきましたが、今後、これらの住宅は建設せず、高齢者集合住宅に移行しつつあるようです。その理由として、施設のイメージが強いこと、何回も引越しをすることによって痴呆が進んだり、病気になるったりといった環境の変化がまねく障害を取り除くことが大切だと認識されてきたことと、経済的な理由も大きいようです。基本的には、在宅に重点を置いた施策に移行しているようです。

民間委託が国内で一番進んでいるヘルシンボリ市の取り組み

市の行政組織の中に、看護・介護委員会が設置され、その下の7つの市直属と3つの民間企業（全体の30%）が、市との委託契約によって看護・介護サービスを行っています。11の会社の職員数は合計で1,700名。（ヘルシンボリ市は民間委託が最も進んでいるとのことです）

毎年、実績を市に報告し、それによって翌年の仕事が決まる仕組みになっています。実績の中には、利用者からの苦情も含め、すべてのサービス内容が含まれています。

看護・介護のサービスについては、ホームヘルパー、地域の医者、看護婦がチームを組んで介護・看護に当たっています。高齢者の住む住宅にはすべて緊急通報装置が設置され、地域のアラームセンターに直結しており、担当のヘルパーや看護婦にポケットベルで連絡されます。

地域のサービスセンターと一体となったヘルシンボリ市の高齢者集合住宅

高齢者の集合住宅を2ヶ所訪問しました。バルトープとベルガリドの2ヶ所ですが、どちらも市直属であり、地域のサービスセンター（市全体で10ヶ所）も兼ねています。

バルトープでは92名の年金生活者のための集合住宅と、41名の痴呆のお年寄りの入居者のサービスを、100名の職員（在宅ヘルパー、地域看護婦も含めて）で行っています。居室は1部屋、シャワー室は共同、サービス関連では、作業療法室、理学療法室、美容院、洗濯室が設置され、地域の人々も自由に利用できるようになっています。

ベルガリドは、ナーシングホーム、健康な高齢者、痴呆の高齢者が混合で住んでいます。65名の入居者を34名の職員が担当し、地域のサービスセンターとしては、20名の職員で、90名の在宅サービスを担当しているそうです。居室は、すべて2部屋、シャワールームが付いています。

1人2部屋でシャワールーム付きというのが一般的な高齢者住宅であり、最初に訪問したバルトープは、古くて最悪であると話されていましたが、日本の老人ホームと比較するとうらやましい限りです。

しかし、経済的な面と、住み慣れた地域で住み続けるといったことから、一般的には



ヘルシンボリ市：バルトープ高齢者住宅内の作業療法室

在宅に変わってきているようです。在宅支援には、介護・看護はもちろんですが、車いすなどの補助機器の支給、住宅改造などきめ細かなプログラムで、一人ひとりのニーズに合った支援制度が確立されています。

〔自分の生き方を自分で決めるデンマークの高齢者福祉〕

デンマークの福祉は、スウェーデンよりシンプルな仕組みになっているようです。基本は、すべて国（行政）が責任を持っていることです。その中で、高齢者福祉の3つの目標が上げられています。

- ①継続性があること→可能な限り高齢者の生活環境を大きく変えないこと。
- ②自己決定権があること→高齢者自身が自分の生活をどのように形成するか決める。
- ③自己資源の活用→高齢者が自分の持つ能力を活用する。何ができないかではなく何ができるかに目を向ける。

以上のことから脱施設化の方向に変化してきており、高齢者福祉も、〔昔の在宅介護⇒大部屋施設⇒ケア付き住宅（施設）⇒地域ケア（多様なサービス）〕と変わってきています。

地域社会と一体となったオーフツ市の高齢者住宅併設のローカルセンター

オーフツ市には38ヶ所のローカルセンターがあり（各地域、人口7,000人～1万人位の地域毎に1ヶ所ずつある）、その内の2ヶ所、ローデンプルグローカルセンターとフレデリクスローカルセンターを訪問しました。どちらも、地域の核として、在宅ケア、高齢者住宅の入居者ケア、地域の人々の交流の場としての機能を持っています。

ローデンプルグローカルセンターは1974年にできた、当時の典型的な（1室しかない最悪の）施設とのことです。ここでは、70名の

入居者のケアとこの地域の 280名の在宅ケア（67歳以上、デンマークの退職年齢は67歳）を約 150名の職員で担当しています。

フレデリックスローカルセンターは、予約なしで飛び込みで行った所です。重度の要介護のためのケア付き住宅、高齢者住宅、家族住宅、保育所が併設され、デイセンター、訪問看護ステーション、ホームヘルプステーションが設置されています。

すべて1DKでシャワー室がついている今では標準的なアパート形式の施設です。訪問したとき、丁度来週レビューをする予定のことで、練習や本格的な舞台装置などの準備をしていましたが、入所者だけでなく、子どもも若い人も地域の人も一緒に準備をしていました。

どちらのローカルセンターにもいえることですが、地域住民が自由に出入りでき、食事やお茶、入所者との共同作業などを行っています。食事だけに来る人を除いて、週に約600人の地域の人が集まるそうです。

施設運営と利用者との関わりでは、利用者代表会が設けられ、施設の予算、職員の採用、施設・在宅ケアの利用・運営に関して意見が述べられる仕組みになっています。

仲間が集まって、いきいきと暮らす健常者のグループホーム

オーフツ市の市街地のグループホームでは、



オーフツ市：フレデリックスローカルセンター内の交流室

成人学校に通っていた仲間で話し合い、市の協力を求め、設計士、建設業者と話し合いを続けながら決めてきた賃貸方式のグループホームで、60歳から74歳までの15の方が共同生活をしています。土地・建物は市の所有、最小の居室が50㎡(年金の額によって異なる)、維持管理は、内装は入居者、外壁は市が行います。お互いにプライバシーを尊重しながら、「仲間同士で楽しくやっているヨ」と案内して下さった4の方が明るくおっしゃっていたのが印象的でした。

福祉のまちづくりや障害者のニーズ調査などの業務のお手伝いをしていく中で、さまざまな疑問や問題が生じてきていました。福祉の先進国北欧といわれていますが、いったいどんなところなのか、バリアフリーのまちとは、何が先進的で何が素晴らしいのか、これから21世紀に向けて急速な高齢社会を迎える日本にとっていったい何が参考になるのだろうかと思いながら参加しました。

2つの国の2つの都市の高齢者施設を見ましたが、どちらの国もお年寄りが非常にゆったりと落ちついて過ごしているという印象をもちました。特にデンマークでは、人生の最後まで人らしく暮らしていくための努力を、行政も住民も一緒に、話し合いながら作り上げていく姿勢が強く感じられました。

(大阪事務所 いけだ さちよ)



オーフツ市中央駅：コンコースからホームへのエレベーター、階段、エスカレーターが一体となっている(日本では見られない)

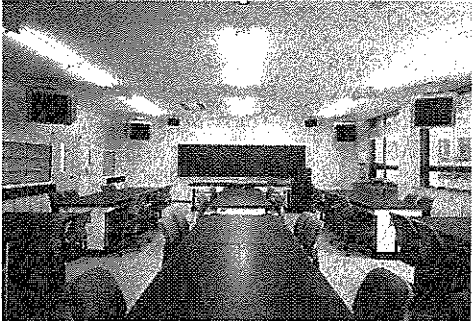
「歴史のロマンへの期待」
 京都橘女子大学に文化財学科棟
 「清史館」が竣工しました
 高坂 憲治

受験生の間で「文化財学科」が人気を集めています。今春、京都橘女子大学に新設された文化財に関する実践的技術を学ぶ「文化財学科」、この昔からありそうな学科は、意外なことに関西では奈良大学に次いで2番目ののだそうです。京都や奈良は街そのものが埋蔵文化財のようなものですから、建築の計画や設計を行う際に必ずそれらの存在や分布について検討しておくべきで、実際に試掘など埋蔵文化財の調査をすることも数多くあります。三内丸山遺跡（青森県）や加茂岩倉遺跡（島根県）などの画期的な発掘が続く中で、過去と現在をつなぐタイムカプセルの役割を果たす文化財を通じて、歴史や伝統文化へのロマンをかき立てられる若者が増えているのでしょうか。



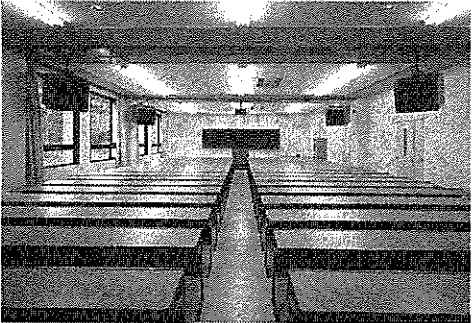
特別収蔵室

4月26日、京都橘女子大学で文化財学科開設と文化財学科棟「清史館」の竣工の記念式典が行われました。第一部の「清史館」竣工式に続き、第2部では奈良国立文化財研究所長である田中琢先生の「日本の文化財と世界文化遺産」と題した記念講演をいただきました。折しもシルクロードの終着駅である奈良「正倉院宝庫」の国宝指定がきまり、東大寺や春日大社、唐招提寺、薬師寺などが世界文化遺産に推薦されようとしています。既に世界文化遺産に指定されている京都などと共に、人類共通の文化遺産としての関心が高まってきています。



実習室

「清史館」は、文化財学科開設のために実験や実習のできる設備を備え、以前からの設計コンセプトであった講義をよりビジュアルで理解しやすいものとし、かつ先生が使いやすい操作性をもつ視聴覚設備を備えています。



講義室

また、小規模ではありますが檜で造った収蔵庫を設けました。この収蔵庫は空調設備を設けず、壁や天井の檜が自然に息をするように室内気候の調整ができるようにしました。正倉院からの知恵を「文化財学科棟」として受け継ぐことを意図したものです。

京都橘女子大学では、学内LANを実施するなど21世紀の教学環境の整備に向けて常に前進しています。現学長の門脇禎二先生は高

知県のご出身。大変お酒がお好きで、どんなに忙しく夜遅くなっても職員の方々を誘われると伺いました。それが明日への活力の源であるとも。歴史ロマンや伝統文化の魅力は尽きませんが、一方で就職の問題など大学を取り巻く課題は数多くあります。それでも、京都橘女子大学で教職員の方々と一緒に仕事をさせていただく度に、きっと乗り越えていくエネルギーを感じるのには僕だけではないと思います。

(大阪事務所 こうさか けんじ)

崇仁の住民参加のまちづくり

嶋崎 雅嘉

崇仁のまちは今…

京都駅の東側に「崇仁」というまちがあります。

崇仁のまちは、「住宅地区改良事業」が導入され、昭和40年代から改良住宅等の整備が進められてきましたが、現在、事業はまだ半ばしか進んでいません。まちは今、事業により買収され、フェンスで囲まれている空き地が多く、人口も減少している状況です。

これまで、住民全体でまちづくりを考える場が無かった「崇仁」ですが、昨年「崇仁まちづくり推進委員会」が結成され、住民主体のまちづくりが取り組まれています。

昨年の夏から私達が推進委員会の運営をお手伝いしてきましたが、「まちづくりを住民の皆で考える」という意識を持ちながら、ワークショップ手法などを用い、意見を出しやすい雰囲気づくりに心掛けて会議等を重ねてきました。

住民ワークショップの開催

推進委員会では、一部の人だけでなく、ま

ちの多くの方に、まちづくりに参加してもらおうと、住民全体に呼びかけてワークショップを開催しました。

まず、自分たちのまちを見つめなおしてもらうために、2月11日に「崇仁タウンウォッチング」、2月23日には、まちの将来像を思い描いてもらう、「まちづくりビジョンゲーム」が開催され、地区住民の方を中心に、老若男女 100人近くが参加し、大いに盛り上がりました。

タウンウォッチングとビジョンゲーム

タウンウォッチングでは、「思い出探検隊」と銘打ち、まちなに残っている「思い出」を探し、「思い出マップ」をつくりました。

「昔はこの辺にヤミ市があった」「駄菓子屋には子供がたくさん集まった」「東海道線でよくかくれんぼをした」といった多くの思い出が地図の上に写真と一緒に書き込まれ、カラフルなマップができあがりました。

ビジョンゲームでは、まちの将来像を思い描き、ひとつのまちづくり物語を創ってもらいました。



タウンウォッチング まちにくり出す「思い出探検隊」



できあがった「思い出マップ」を発表

できあがった物語は、「人の集まるまち崇仁」「老人から子供に伝えるまち」「崇仁生まれ変わり大作戦」と様々な視点から描かれ、住民の方のまちへの思い入れや愛情が伝わってきます。

2つのワークショップを経て…

この2つのワークショップは、住民の方が、自分達のまちを見つめなおし、将来の夢を描ききっかけとして、大きな役割を果たしました。

この夢を具体的なまちづくりに、どのように盛り込んでいけるかは、これからの宿題ですが、一連の取り組みは、まちのマスタープランを検討する段階から住民の方の思いを取り入れていく方式として、先進的なまちづくりプログラムといえます。

今後、崇仁以外のまちでもこのような住民主体のまちづくりが増える事が期待されますが、住民の方の「まちへの思い入れと愛情」をまちづくりの基本として関わって行きたいと考えています。

(京都事務所 しまさき まさよし)

ケニア便り その6
— 最終回 —
山田 克雄

ケニアへ来てから1年と9ヶ月になります。こちらの滞在もあとわずかになり、来月には帰国する予定です。この便りが皆さんのお手元に届く頃には、懐かしい？アルパックに戻っております。また、仕事やなにかの機会でお目にかかることができましたら、ケニア便りの感想やその他なんでもかまいませんので、声をかけて下さい。

ケニアでの生活の感想

ケニアは旅行を含めてはじめてですし、ア

フリカもはじめて訪れたことになります。約2年間のこちらでの生活を振り返りますと、最初はいろいろと不安がありましたが、大した困難もなく、今までのところは、結果的には大変うまくいったといえます。

これにはいろいろと要因がありますが、家内と娘と一緒にに行ったことが大きいと思います。外国生活での家族の支えはかえがたいもので、改めて一緒に来てくれた家内に感謝しております。ケニアはご存じのように赤道直下にあるアフリカの国ですし、日本からみると本当に遠い国にみえます。ここで生活することは想像がつきませんでした。私が住んでいますナイロビは、アフリカでは有数の大都市ですし、日本人を含めて外国人が多く住んでいます。そのため、暮らしてみますと一応なんでも必要な物は手に入り、多くの国の人が生活する国際的な都市としての環境が整っている町といえます。これがケニアでも交通、情報の不便な地方ではかなり状況が違っていたと思われれます。

また、ナイロビは年間を通じて大変気候が良い地域で、雨期を除くと日本では秋晴れの日が毎日続くという感じです。気候だけでみると世界の中でも有数の快適な居住環境を持っている都市といえます。ただ、あまりにも同じ気候が続きますと、単調で生活にメリハリがなくなります。それでも一応季節はあり、日本と逆になりますが、2～3月が夏で一番暑く、7～8月が冬でセーターがいる季節になります。

ケニア人とのつきあい方

ケニア人の行動をみますと、スワヒリ語で「ハクナ・マタタ」「ボレボレ」といいますが、「心配しないで」「ゆっくり」といった言葉のイメージがあります。日本人と比べますと全く逆の行動になります。なにごとあ

せらず心配しないという恐るべき美德がケニア人にありまして、これが日本人のあくせくして先のことを心配するというまた世界的にも恐るべき美德と真っ向から対立することになります。

国際交流は、まず相互が異なっていることを認識することから始まると言いますが、肌の色や姿・形に加えて、考え方、行動パターン、生活スタイルどれをとっても、アフリカは本当に違っていることを実感しました。この違いを正しく受け止めないで、日本的な価値感や思考方法だけに固執しますと、とてもしんどくなりますし、アフリカがいやになると思います。仕事を効率的に進めるには、最も難しい所ですが、「ボレボレ」と辛抱よく進める以外にないでしょう。しかし、2年近くもなると、なんとなくコツがつかめて、もともと気楽で愉快な人々ですので、楽しく暮らせるようになります。

ケニアで学んだこと

こちらでの仕事は、大学での教育研究と学科運営が中心となっています。最初の学期は、授業の準備に追われる日々で、休みだけでは足らなく、前の日は徹夜に近い状態で準備をして講義する時もありました。十分に準備できた日は、学生の反応も良く、充実した感じになりますが、手を抜くと自分がいやになり本当に落ち込んでしまいます。

教えると言うよりも、もう一度学生時代に



ジョモケニヤッタ農工大学建築学科の学生とともに

学んだこと（ほとんど忘れていますが）や仕事で経験したことを整理して、学生に伝える作業といえます。人に教えることは、教える方も学んでいることを認識しました。こうした意味で、実務的にはなかなかできない専門分野を系統的に時間をかけて調べ学ぶことができた点は、こちらに来た大きな収穫と思っています。

もう一つは、赴任した都市がナイロビ市であったことから、ナイロビ市の歴史と都市の発展を都市計画という視点から調査研究できた点です。この目的は、ケニアの現地に関する教材が未整備であることから、ナイロビ市を取り上げて教材を作ることをねらいとしていますが、今世紀にイギリスのコロニアル都市として成立し東アフリカの大都市として成長したナイロビ市は、調査研究の対象としても興味のある都市でした。

ナイロビ市の都市計画の概要については、技術情報交流誌「プラネット」に掲載しますので、関心を持たれた方はお問い合わせ下さい。おわりにあたって

まだ1ヶ月のケニアでの生活を残していますが、ニュースレターで報告させていただいてましたケニア便りを終了します。また、別にケニアで経験したことを報告できればと思っています。昨年の学期では、所属しています建築学科から最初の卒業生を送り出すことができませんでしたが、今まで日本が支援してきたジョモケニヤッタ農工大学プロジェクトの大きな成果となりました。最後に、得難い貴重な機会を与えて下さった京都大学建築学科加藤邦男先生と弊社三輪泰司会長に深く感謝致します。また、在任期間中に活動を支援して下さいましたJICA関係者およびアルパックの皆様にも深く感謝します。

（京都事務所 やまだ かつお）

**目指せオリンピック！
大阪に魅力あるスポットが続々登場
高田 剛司**

大阪城、通天閣、食いだおれの街、吉本の芸人、阪神タイガース(?)・・・。

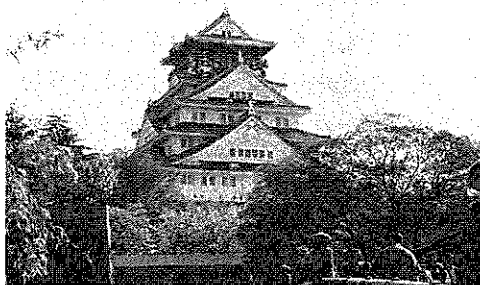
大阪をあまり訪れたことのない人が、「大阪の街のイメージは？」と質問されて、これまで出てくる答えといえば、上に挙げたくらいではなかったでしょうか。しかし、90年代に入り、そんな大阪のイメージにも変化が現れてきました。海遊館や新梅田シティが新たな名所として加わり、特に最近では、相次いで大型施設がオープンしたり、リニューアルを行っています。

さて、埼玉育ちの私ですが、大阪の新しいスポットの立地動向についてご紹介します。

OAP（大阪アメニティーパーク）が昨年1月にオープンして間もなく、早速、見学に出掛けたところ、後ろから、「ここは、大阪ちゃう（違う）なあ」という感嘆(?)の声が聞こえてきました。ここ数年で、OAPには「帝国ホテル大阪」、新梅田シティ隣には「ウエスティン・ホテル大阪」、そして、阪神によって再開発が進む西梅田地区の高層複合ビル「ハービスOSAKA（今年3月にオープン）」には「ザ・リッツ・カールトン大阪」、と東京及び外国資本の名門ホテルが次々に大阪へ進出してきました。

グローバル化の進む時代にあって、これまで独自の商圈を作り出してきた大阪にも、いよいよその波がかかってきたのではと思うと同時に、こうしたホテル戦争が起こるということは、大阪にもグローバルな魅力が備わってきた所以なのではないかと感じました。

特に最近1年間では、大阪ドーム、OCAT（大阪シティ・エアターミナル）、梅田の



金色あざやかに生まれ変わった大阪城新地下街「ディアモール」など続々と新しい施設等がオープンしています。また、これからも、USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）、難波再開発、大阪駅北地区再開発等、大型プロジェクトが構想、計画されています。博多に負けていません。

こうした新しい集客施設等の立地や再開発が進む一方で、以前からの大阪のシンボル「大阪城」も、「平成の大改修」によって、3月にリニューアル・オープンしました。夜には、美しくライトアップされた天守閣が夜空に浮かび上がり、幻想的な世界を作り出しています。

そして、東京タワーや神戸のポート・タワー等とは違い、いかにも大阪らしい庶民的なおおいする「通天閣」も、昨年7月にリニューアル・オープンしました。先日、高視聴率で放送が終了したNHK朝の連続テレビ小説「ふたりっ子」の舞台にもなったため、通天閣を目的に訪れる観光客も増え、にぎわいが戻りつつあるようです。さらに通天閣の南には、本紙77号、79号で取り上げた「フェスティバルゲート」が



装い新たな通天閣

今年7月にオープンを控えており、「新世界」の新しいシンボルとなりそうです。特筆すべきは、これが単なるアミューズメント施設で終わってしまうのではなく、「世界のお風呂が集まった」スパリゾートを併設しており、いかにも大阪らしい庶民性を兼ね備えた施設である点です。

また、上方演芸資料館や多目的ホールを備えた「ワッハ上方」が昨年11月にオープンしたことも、「お笑いのメッカ」である大阪らしい新名所といえるでしょう。

集客施設の立地に伴い、交通網の整備も進んでいます。昨年12月には地下鉄鶴見緑地線が京橋から心齋橋まで延伸し、さらに8月には、大阪ドームのある大正まで延伸する予定です。また、3月には、京橋と尼崎を結ぶJR東西線が開通し、それに伴い「北新地駅」「大阪天満宮駅」などの新駅も設置されました。

新しいものを積極的に受け入れる一方、大阪ならではのものは、しっかり受け継ぎ、主張していく。集客都市を目指す大阪は、「スマート青年」というよりも「頑固おやじ」が一生懸命頑張ろうとしている姿に似ているようです。

(大阪事務所 たかだ たけし)

'97 新人 紹介

今年もアルバックに前途有望な新人がデビューします。今後とも皆さんどうぞよろしくお願いします。(口内は、新人同士がお互いのイメージをビジュアル化しました)

◆京都事務所

山崎 博央 (第4計画部)

石川県は小松市の出身です。今まで一番熱中したことは、大道芸にあこがれたときに練

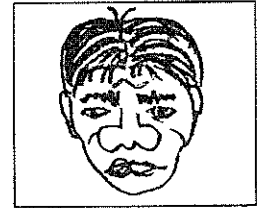
習したお手玉とFが押さえられるようになるまでのギターです。今まで読んだ本で印象深かった本は沢木耕太郎の「深夜特急」で、あこがれていただけに人生が変わりそうになりました。



◆大阪事務所

松岡 浩史 (第1計画部)

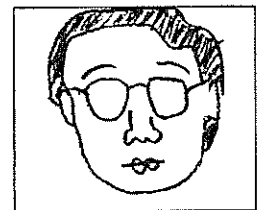
小学校から中学校まで野球に熱中していました。ことに秀でた選手のいなかった小学校6年の時のチーム(私がキャプテン、父が監督)が、チームメイト同士の助け合い、欠点を補うことで常勝チームに変身したことは良い思い出です。叩かれても叩かれても前進していく根性は誰にも負けません。



◆東京事務所

増満 誠

南の郷らしくのんびりとして大らか、酒は何といてもイモ焼酎が自慢の鹿児島県出身です。入社後は、計画から実施設計まで通した仕事がやってみたいです。



左から増満、山崎、松岡

うまいもの通信②

薫製たくあん

馬場 正哲

ロマンの漂う但馬の村岡からお届けします。特に地域限定というものではありませんが、空気と材料とこの人は地域限定です。名を井上利夫さん年齢不詳、生活工房香味煙の煙長をされています。福留功男の「ズームイン!!朝!」でとりあげられ、実業之日本社「日本全国こだわりの逸品」掲載のおりがみ付き。

先日、「おじろん」のまち美方町(兵庫県)に向かう途中、村岡町福岡あたりに薫製をやっている人がいると聞き、飛び込みでそれらしい洋風建物に立ち寄った。パンフレットでもと挨拶すると、ちょうど園長?が帰ってきたとのこと、「まあお茶でも」となり、お互い人間好きなのか好奇心か、上がり込んでしまった。

この達人、地域ではあまり知られていない。しかし、自給自足‘地上天国’農業で失敗した人としてよく知られているらしい。その失意で死のうともがいた中に、但馬らしくて但馬にないもの「但馬牛の薫製」が閃き、光明を發した。この導きで人に出会い、師に恵まれて、自然に今となっているとのこと。

この人からは、地方・人間・自然といった田舎がよく見える。さて、頂いた「沢庵」の



作業場の煙長



煙長手描きの商品紹介

薫製を味わった。薫製臭い!何故漬け物に薫製か?味わうと香ばしさのこくが違うような感じがした。その訳はどうもこの人の薫製哲学にあるらしい。先を急ぐこともあり、後日一杯やりながらの約束を得て謝辞申し上げた。是非、煙のはなし、子供たちとの紙芝居の話、農業のこと、むらおこしのこごとなどなど語りたい、旨そうな人です。

香味煙:0796-96-0069

(大阪事務所 ばば まさあき)

アルパック30周年記念事業のお知らせ

アルパックは、皆様の御支援のお蔭で、今年創業30周年を迎えました。私共は大きな節目の年として位置づけ、「アルパック再起業」を合言葉に経営改革に取り組んでいるところです。地域と建築の研究と創造を通じて社会に貢献するという初心に立ち返り、改めて創業活動に取り組んでいきたいと考えています。

そうした勝手な想いと皆様への感謝の気持ちを込めて、9月11日(木)に国立京都国際会館に於いて記念企画と記念パーティをとり行いたいと準備を進めています。その節はよろしく願い申し上げます。

(京都事務所 山口 繁雄)

編集局より

○前号(82号)の「伝統文化の伝承でまちおこし」の文中の施設名が間違っておりました。正しくは、「ウッディライフ余呉」→「ウッディバル余呉」です。訂正とお詫びを申し上げます。

○新年度を迎え、読者の皆さんの住所・所属先などの変更がございましたら、編集局までご一報をお願いします。また、皆さんの「ニュースレター」へのご意見、ご感想もお待ちしています。

担当:大阪事務所 中村 孝子

グローバル社会における関西像研究会提言

『新しい関西像をめざして』—「活私創公」の地域づくり—

紹介 重本 幸彦

5年間の成果をまとめる

「グローバル社会における関西像研究会」は、地球時代に対応した関西や近畿のあり方の研究を目的に、1992年1月に関西の独立系（大企業の系列に属さない）のシンクタンク並びに行政マンや学者など、約60の団体・個人で結成された。このほど、5年間の研究会・シンポジウム・出版などの多様な活動の成果を踏まえ、『新しい関西像をめざして』というタイトルの提言を発表した。

地域自らが考えた地域への提言

この研究会の当初の目的は、国による次期全総計画（従来の呼び方では「五全総」＝第五次全国総合開発計画）の策定への積極的な発言にあった。しかし、やがて国が決める次期全総計画を待つのではなく、まず自らの地域の計画を地域自らの判断で示し、それが次期全総計画で位置づけ止揚されることを期待するとの自律的でボトムアップ的な立場へと進む。地方分権を、地方ブロックや国土の計画づくりの面でも先取りしようという訳だ。

提言の5つ柱

提言1 “活私創公”の市民都市—関西ライフ（生き生きしたライフスタイル等の意）の実現のために—。「関西市民議会（地域の代表や有識者から成る地域戦略の提案・決定・推進の組織）」の設置 など。

提言2 関西グローバル・プラン—地球市民交流拠点の形成のために—。世界平和交流都市の実現 など。

提言3 関西産業復興計画—新たな価値基準による産業創造のために—。「先導的世論形成機能」「新産業提案機能」「産業創造マスター

（ベテラン人材）グループ」の形成 など。

提言4 地域連関網と関西経済文化圏—地域と地域の新しい関係形成のために—。圏域内での複数拠点のネットワークの形成 など。

提言5 国土構造の新パラダイム—地方ブロックの連携による国土形成のために—。広域連携型国土（自律的な地方ブロックの連携体としての国土）の実現 など。

“活私創公”と“自律ブロック圏”の提起

「提言」のキャッチフレーズ“活私創公”は、戦時～戦後～高度成長期～現在へと一貫して引き継がれてきた「滅私奉公」社会のアンチテーゼとして考案され、個人や民間団体の創意あふれた自由な活動が、“公”＝公共善と活気とに満ちた社会を創るとの考えを示す。

また、近畿圏は、単なる地方行政圏にとどまらず、地域経済学などの視点からみて国土を構成するまとまりある圏域（機能的一体性を持ち、かつ自律的な広域経済圏）とみなしうるとの見解が、この「提言」の一つの理論的基礎となっている。

この「提言」はこれからの関西圏・近畿圏のあり方を大胆に描くとともに、「提言」自体がボランティア的にまとめられたもので、ささやかだが“活私創公”の地域づくりの一例かもしれない。

（大阪事務所 しげもと さちひこ）



まちかど

Dome : 半球形建物 2題 中西 由起

野球観戦に行ったこともない私が、新しくドームができた途端に行く機会に恵まれました。その新鮮な目で見た感想は、さて？

私の野球場デビュー 名古屋ドーム

名古屋ドームには、最寄りの大曽根駅から徒歩15分またはイベント時には千種駅から臨時バスが出ていますが、私は後者でドームへ向かうことにしました。売られていく牛のようにぎゅうぎゅうに詰め込まれたバスで、始まる前からヘトヘトになりながら席に着いた時の第一声は、「でかいっ！」でした。イタリア人らしいコロコロンと体形のオペラ歌手が米粒のようにしか見えません。オペラグラスでようやく大豆大です。双眼鏡、いえ望遠鏡がいるぐらいです。はてさて、野球の試合ではボールが見えるのでしょうか？

音楽ホールでは香ぐえない、フライドポテトの香りがぶーんっとただよってきますし、屋外にはない反響効果によって、コンサートに行ったというよりは、お祭りに参加した一夜でした。

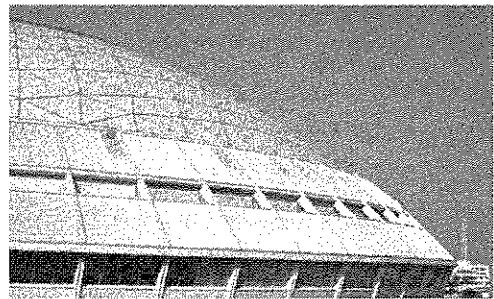
水辺にあぐらを組む大阪ドーム

大阪ドームは、スーパー堤防の整備された尻無川沿いに、大阪ガスのガスタンクと並んであぐらをかいています。こちらは最寄りの大正駅から徒歩10分以内ですが、せっかくで

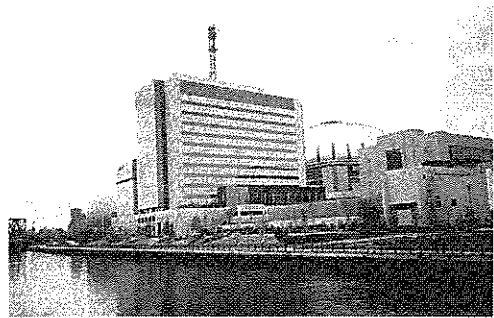
すから整備された運河沿いで一休みされてはいかがでしょうか？

観覧席にはスペシャルシートなるものがあり、1席ずつにエアコン+液晶テレビが付き、快適+実況付き観戦と相なるようです。また、大阪ドームも野球専用ではありませんので、使用目的によっては人工芝を巻き取らなければなりません。ここでは、トイレトペーパーを巻く要領で、しかも巻きやすいように下から風を送ってかなりの重さになる人工芝を浮かせているそうです。人工芝が浮くぐらいですから、私は密かに魔法の人工芝に乗ってみたいと思っていますのです。

(大阪事務所 なかにし ゆき)



名古屋ドーム 出典：パンフレット



スーパー堤防と大阪ドーム&タンク兄弟

アルパック (株)地域計画建築研究所

- 本社
- 京都事務所 〒600京都市下京区四條通り高倉西入立売西町82・大和銀行京都ビル6F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
- 大阪事務所 〒540大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)942-5732 FAX(06)941-7478
- 名古屋事務所 〒460名古屋市中区栄3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925
- 東京事務所 〒160東京都新宿区新宿2-5-16・霞ビル401/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560
- 九州事務所 (株)九州地域計画研究所 〒810福岡市中央区天神1-15-35・ホンダハビエ5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673